

令和3年第11回西予市教育委員会定例会 会議録

I 開会の月日及び場所

令和3年11月22日（月）

西予市教育保健センター4階 大ホール

II 定数

5人

III 出席者

教育長 松川 伸二	委員 古谷 和彦
委員 酒井 郁子	委員 梅川 俊一
委員 木下 弘規	

IV 欠席者

なし

V 議事に出席した公務員の職氏名

教育総務課長 山崎 徳博	学校教育課長 滝澤 洋
生涯学習課長 竹内 克之	スポーツ・文化課長 浅井 裕史
明浜教育課長 大中 規至	野村教育課長 土居 文人
城川教育課長 伊井 健一	三瓶教育課長 滝野 広明
教育総務課長補佐 原井川英一	スポーツ・文化課長補佐 高木 邦宏
教育総務課主任 稲口 智博	

VI 傍聴者

なし

VII 会議の概要

1 開会

教育長 午後2時開会を宣する。

2 会議録の承認

教育長 令和3年第10回教育委員会定例会会議録について意見を求める。
梅川委員 会議録の修正箇所を指摘する。
教育長 修正する旨答える。

教育長 修正した令和3年第10回教育委員会定例会会議録の承認について諮る。

全委員 異議ない旨答える。

教育長 修正した令和3年第10回教育委員会定例会会議録を承認する旨宣する。

3 行事報告及び行事予定について

教育長 小中学校の修学旅行について、現在のところ17校中12校が実施済みであり、未実施の5校についても12月3日までに実施する予定である旨報告する。

12月行事予定について報告を求める。

教育総務課長 12月行事予定について報告する。併せて令和3年第12回教育委員会定例会の日程については、12月21日（火）午後3時から開催する旨提案する。

教育長 12月行事予定について意見を求める。

木下委員 大野ヶ原小学校の終業式の日程について問う。

学校教育課長 大野ヶ原小学校の終業式は、他の小学校と同日である。3学期の始業式は、他の小学校より1週間遅くなる旨答える。

教育長 令和3年第12回教育委員会定例会の開催日程について意見を求める。

全委員 特になし。

教育長 令和3年第12回教育委員会定例会を12月21日（火）午後3時から開催する旨宣する。

4 協議・報告事項

○報告

教育長 西予市文化財保存活用地域計画策定に向けた説明と進捗状況について報告を求める。

スポーツ・文化課長補佐 西予市文化財保存活用地域計画についての概要説明及び現時点での本計画策定における進捗状況を報告する。

教育長 本計画策定は、市町村単位における努力義務ということであるが、計画策定した場合のメリットについて、追加の説明を求める。

スポーツ・文化課長補佐 本計画を策定した場合の主なメリットとしては、文化財に関する国の補助制度についての活用面が挙げられる。本計画を策定し、国の認定を受けることで、補助金が上乘せされる補助金メニューが活用できるようになることや、文化庁からの補助金だけでなく、地方創生交付金で取り扱うことができる文化財の件数が増えるメリットもある旨説明する。

- 教育長 報告事項について質疑を求める。
- 古谷委員 各地区でヒアリングをされたとのことであったが、特徴的な意見について問う。
- スポーツ・文化課長補佐 大きな課題として、やはり人が減り、後継者がいないという意見が、ほぼ全ての地区から共通してあった。地区に伝わる伝統芸能や無形民俗文化財の継承、また、お寺や神社の維持管理が難しくなっている地区が、かなり多かった印象がある旨答える。
- 古谷委員 例えば、お寺等の維持管理について、個別ではなく、一括でこの計画の中に掲げると、どの地区でも当てはめることができるのか問う。
- スポーツ・文化課長補佐 実際には、政教分離といったことがあるため、すべてを計画の中に盛り込むというのは難しいところがある。
- ただし、そのようなお寺や神社、無形民俗文化財に、どのような価値があるのかを調べることにより、文化財として指定することができれば、市としても、具体的な保存と活用といった支援ができる。そういった支援に関することを計画に書き込むことはできるかと思う旨答える。
- 酒井委員 各地区の住民からの意見の聞き取りは、どのような手法で行ったのか問う。
- スポーツ・文化課長補佐 ヒアリングは、公民館単位で行った。各地区には様々な団体があり、本来であれば、大勢の方から聞き取りを行いたかったが、新型コロナウイルス感染症の関係もあり、大勢の人数が集まるということが難しかった。やむを得ず、各公民館主事に依頼し、文化財に興味がある方や、文化関係の団体の方などに集まっていた。少ない人数ということになったが、ご意見をお聞きした旨答える。
- 木下委員 計画策定の流れの中で、指定・未指定を問わず文化財を把握し、文化財リストを作成するといったことも含まれているようである。埋もれている貴重な文化財も存在すると思うため、聞き取りを十分に行った上で、文化財リストをまとめていただければと思う旨述べる。
- 教育長 全国学力・学習状況調査の西予市の結果と考察について報告を求める。
- 学校教育課長 令和3年度の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、西予市の子どもたちの学習状況について報告する。
- 教育長 報告事項について質疑を求める。
- 酒井委員 児童生徒に対する質問事項の中で、生活や心情といった内容において、前向きな結果が出ており嬉しかった。このような意識があれば、西予市の子どもたちの将来は期待できるのではないかと感じた。

ただ一つ、中学校生徒への質問の中で、将来の夢や目標を持っている割合が若干少なかったようである。小さい時から一つでも、就きたい仕事や将来の目標を定めることで、考え方などが変わるかもしれないので、その点は大切にしたいと思う旨述べる。

学校教育課長 中学校生徒における将来の夢や目標を持っている割合は、全国的にも低くなっている。やはり、中学生になると、現実的なことを考え始め、将来への迷いということも生じてくるのではないかと思う。

そのような不安の解消や目標設定に寄り添っていくために、中学校でのキャリア教育に力を入れており、先日も各中学校で市内事業所等のご協力を得て、職場体験等が行われた。このような取組みの中で、しっかりとした目標を持ってくれる子どもたちも増えるのではないかと期待している旨述べる。

木下委員 「自分にはよいところがある」、「学校に行くのは楽しい」といった質問に対して、よい結果が出ていて良かった。

愛媛県義務教育課のホームページに、今回の市町別の結果と分析が公表されていたが、この件の各学校への伝達はすでに行っているのか問う。

学校教育課長 結果の詳細については、各学校に通知しており、各学校においても分析を進め、課題等への対応を行っているところである旨答える。

酒井委員 GIGA スクールにより、パソコン関係が充実し、学校訪問の際にも子どもたちは楽しそうに授業を受けていた。

一方で、私自身もそうであるが、以前は文書を書く時に、必ず辞書を横に置いていたが、最近はスマートフォンで調べるようになった。しかし、辞書を引いて読み書きした時の方が、覚えていることが多いと思う。今回の結果を見た時に、そういったことが少し影響しているのではとも感じた。

それぞれ一長一短あり、ICT が充実することで、読み書きや、じっくり文字を読むといったことが疎かになる面も危惧しているが、これからの ICT を活用しての教育活動においては、避けて通れないことだと思ふ旨述べる。

学校教育課長 昔ながらの紙媒体の良さと、これから避けて通れない電子媒体の使い方については、混乱や葛藤といったことが生じてくるのではと感じている。

国語辞書の使い方については、小学校 3 年生の教科書で現在も取り扱われている。また、目標を達成するために、どの手段をとれば一番自分のためになるのかといった、考えていく力を身につけていか

なければならぬのではとも思う。

便利なことだけを求めて基礎的な部分を見失わないよう、学校現場において指導していきたいと考える旨述べる。

木下委員

中学校での「平日 1 日あたり 1 時間以上、勉強のために ICT を使う」の質問で、西予市は全国平均を少し下回っているが、それほど大きくとらえなくてもいいのではと思う。

勉強の方法により、ICT や先ほどあった筆記といったもので、それぞれにあった学習方法を充実させてもらえればと思う旨述べる。

学校教育課長

西予市においては、Wi-Fi 環境がない家庭において、モバイルルーターを貸出しできる環境を整えたため、持ち帰り学習も積極的に進められると思っている。そういった点では、来年度の調査では、今年度よりもよい結果が出ると想定している旨述べる。

教育長

GIGA スクール構想がスタートするまでは、都市部と比べ ICT 環境に大きな差があった。昨年度、国の施策の中で ICT 環境整備を前倒しで実施したことによって、ハード面では全国ほぼ同じ水準になったと認識している。そういった中で、西予市の場合は、Wi-Fi 環境のない家庭にモバイルルーターの貸出しを行い、パソコンを自宅へ持って帰り学習するといった取組みを行っている。

若干、子どもたちには登下校時に荷物が重くなるということもあるが、そういった取組みも行っており、次の調査の時には、全国平均を上回るのではないかとと思っている旨述べる。

梅川委員

「授業内容はよく分かる」という質問が小中学校ともにあり、西予市では、「よく分かる」と答えた割合が県平均と全国平均を上回っている。この「授業内容はよく分かる」という質問は、先生が教えてくれる基礎的な解き方といったことは理解できているが、いざそれを応用する力などが若干低いということが、学力面で全国平均を下回っていると考えてもいいのだろうか問う。

学校教育課長

授業内容はよく分かるが、学力面で結果に表れていないというところはある。その部分を分析すると、読み解く力が弱いといったことが見受けられる。しっかりと読み解く力を身につけて問題を把握すれば、応用といった問題にも力を発揮することができるようになるのではと考えている。

基礎的な部分はほぼ劣らないと考えており、読み解く力を身につけていくために、西予市では、日々の読書活動といったことに力を入れている旨答える。

梅川委員

子どもの宿題を見た時に、小学校でも中学校でも問題が難解であ

るような気がした。子どもが簡単に理解できない問題という面も正答率の低下につながっているのではと思う旨述べる。

学校教育課長 確かに問題文が長いところがある。そのため、やはり読む力が必要になってくると思う旨述べる。

古谷委員 テストの結果は、年によって差があると思う。また、新型コロナウイルス感染症の関係もあり、全国的にテストを受けた時の状況が、難しい状況だったかもしれない。

しかし、子どもたちが力をつけていくためには、毎年毎年、着実にしなければいけないことを、先生方に確実にやっていただくことが一番大事になってくると思う。

数値が下がったから、何とかすぐに上げなければいけないといったことも必要かもしれないが、やはり、長期的に考えてじっくり子どもたちの力をつけていくことが、すごく大事になってくるのではと感じた旨述べる。

教育長 各委員から貴重なご意見をいただいた。

補足として、今年度からの新たな取組みとして、CBTシステムを使った愛媛県学力調査といったことがある。これは、これまでのテスト用紙での学力調査ではなく、パソコンを使って学力調査を行うというものである。このシステムを使うことにより、短時間で結果が分かり、その傾向が読み取れるようになる。

これまでになかったことが、今年から始まっており、このような環境がこれから主流になっていくのではと思う旨述べる。

5 閉会

教育長 午後3時4分閉会を宣する。

議事録署名

以上、令和3年第11回西予市教育委員会定例会の顛末を記録して相違ないことを証明する。

令和3年12月21日

教育長

松川伸二

教育委員

古谷和彦

教育委員

酒井郁子

教育委員

梅川俊一

教育委員

木下弘規